

(1) 環境共生型都市の形成について

想定課題

国会等の移転に伴う新たな都市については、地域資源の保全や環境との調和を図った都市とすべきではないか。

対応方向

国会等移転審議会答申では、国会等の移転先となる新都市の在り方について「環境への配慮」が示されております。『人間は自然の一部である』。新都市整備に当たっては、この理念の下に、様々な知識と技術を積極的に導入して、現状の良好な環境の保全に十分な配慮を払うとともに、新たな自然的環境を積極的に創り出すことにより、人と自然が近接し、環境と共生する先導的な都市として、世界の範たるよう努めるべきである。』としています。

したがって、那須地域に展開する新都市は、地球環境の保全にも極力配慮し、廃棄物の減量化やリサイクル、エネルギーの有効利用など資源の循環を基調とする、環境に対する負荷の少ない、地域固有の自然環境と調和のとれた「環境共生型都市」とする必要があります。さらに、世界に発信することにより、これからの世界の都市づくりのモデルとなり、地球環境の保全に貢献できる都市であるべきと考えます。

新都市の整備に当たっては、政治・行政の中心地にふさわしい美観と風格を保持し環境との調和・共生を図るため、開発面積を最小限に止めることはもちろん、開発するエリアと保全すべきエリアを明確にし、「計画なければ開発なし」という理念に基づいた計画的土地利用を実現するなど、地域の特徴である農村の長所を生かしながら、都市と農村の調和を図る弾力的な開発手法を講じることが必要です。

また、北東地域5県で策定した「北東地域首都機能移転基本構想」では、既存の都市機能を活用することや、既存市街地への移転人口の誘導によって新規整備クラスターをコンパクト化すること、さらに行政改革や地方分権等の推進による中央政府のスリム化などによって、移転に当たっての最終的な移転人口を30万人、用地需要を4,900ヘクタールに抑制しています。こうした環境負荷の軽減に配慮したコンパクトな移転形態を提案しています。

さらに、生ゴミ、古紙、下水汚泥などの都市生活からの廃棄物の再資源化や透水性舗装や中水利用など資源やエネルギーを効率的・循環的に利用できる都市システムの構築に加え、都市の緑化、ビオトープの整備など生態系に配慮した都市づくりの技術開発をさらに進める必要があります。

一方、こうした循環型社会の実現を目指した都市整備を図っていくことに加え、環境共生のあり方を生活者の視点から検討していくことも必要です。

生活者が、高度の環境共生技術システムに支えられた日常生活を送ることで、無意識の内に環境負荷低減に配慮したライフスタイルが営まれることが考えられます。

さらに、新都市には、NGOやNPOなどの活動拠点が集積することになり、国内外の様々な主体が行き交う交流拠点になると考えられることから、こうした交流活動に積極的に関わっていくことにより、環境共生に対する意識が高められていくこととなります。

生活者各々が、人から「教えられる」のではなく、こうした様々な体験を積み重ねながら人と自然の関わり方を考え、行動していくことで、正しい価値観と意識に「気づき」、これを共有していくことができるような都市づくりを行っていく必要もあると考えます。

那須新都市における環境共生型の都市づくりの基本方向と対応策

基本方向	基本方向分野内の区分	対応する要素技術の例（具体的対応策）
土地利用	土地利用システム	土地利用のコントロール（オープンスペースの確保） 都市の空気循環
自然共生分野	緑豊かな都市づくり	緑地の保全・確保、緑の回復 「農」との連携（クラインガルテン）
	健全な水環境の確保	雨水の貯留、浸透、中水利用 微生物による水質浄化
	多様な生物との共生	ビオトープ、潜在植生を重視した公園緑化
都市システム分野	環境負荷の少ない都市システム導入	コ・ジェネレーション、燃料電池、環境共生建築 地域冷暖房、都市排熱利用、ゴミ収集
	水や資源のリサイクル	中水利用、微生物による水処理 廃棄物リサイクル、下水汚泥焼却灰の製品化
	クリーンエネルギーの活用	太陽光・熱、風力発電
交通分野	交通需要マネジメント	在宅勤務等、時差出勤、LRT、リバーシブルレーン 商店街共同配送、ノーマイカーデー、パークアンドライド
	交通施設の容量確保	道路網整備、渋滞箇所解消、物流効率化 道路案内システム、路車間情報システム
	環境にやさしい交通基盤の整備	小動物が横断できる道路 トンネル排気浄化
農業生産	環境にやさしい生産方法への転換	環境保全型農業の導入 都市ゴミ堆肥化

コ・ジェネレーション・システム

電力と熱を併給することをいい、発電と同時にそれに使った排熱の利用をすることもある。燃料を燃やして得られる熱を電力に変えると同時に、蒸気、熱水を暖房・給湯などにも利用するシステムで、熱効率が極めて高いのが特徴である。